

「ロープウェイ遊び (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもたちに「ものづくり」をさせる場合、特に低学年(1・2年生)では、欠かせない要素がいくつかある。私は以下のように考えている。

- 1、誰でも入手可能な、簡単な材料と道具のできる
こと。→ 家族ともう一回試せる。
- 2、個々の子どもが、自由にできる造形要素(たとえば色や形)を、活動の中にも含むこと。
- 3、「つくる」だけでなく、「つくって遊べる」または「つくって試せる」活動であること。
- 4、一人でもできるが、集団で活動するとより楽しく、互いに高め合えること。

今回1年生とした「ロープウェイ遊び」は、上記の要素をすべて含んでいると考えている。私が用意したものは、名刺大に切った「板目紙(厚ボール紙)」、クリップ、それにセロファンテープだけである。ただし、クリップは、縦長に開いて、中央部を90°ひねっておく必要がある。これを人数分×2+予備を、あらかじめ作っておくのが意外と大変だ。そのまま置いておくと、絡まってしまうので、厚紙に両面テープを貼って、そこに整列させておく工夫も必要だ。



今回私は、バインダーに段ボールを細く切ったもので段差をつけて、そこに両面テープを貼り、クリップを整列させておいた。別のクラスではこのクリップ配布で失敗したが、今回は完璧だった。



活動時間は「説明を聞いて」「つくって」「遊ぶ」まで全部含んで40分しかない。作り方と遊び方の説明は必要最小限にした、幸い子どもたちは、興味津々の様子で、行儀よくおりこうだった。



私が「見本」として見せた「ロープウェイの車両」だ。立体的な箱にしても良いのだが、最初はこの単純な構造のものが良い。「急行なつかし号、料金100円」と書いてある。裏には別のイラストを描いておいた。



説明が終わると、さっそく思い思いの画を描いていた。ロープウェイではなく、「ロケット」「雲」「空飛ぶ熊さん」「UFO」「新幹線はやぶさ号」など、いろいろだった。この子の「流れ星」もなかなか良い発想だ。